

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290101460		
法人名	社会福祉法人 神楽会		
事業所名	グループホーム夕陽が丘		
所在地	長崎市大浜町543-5		
自己評価作成日	令和7年2月28日	評価結果市町村受理日	令和7年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7年 3月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた民家型のグループホームで、四季折々の移ろいを感じ取ることが出来ます。リビングや畳を敷いた和室で共に過ごしている時間を楽しんでいます。毎月、各季節毎にイベントや行事を計画して、地域のお祭りへの参加やバンド演奏の方々をお呼びする等、包括的な交流にも力を注いでいます。家族のような関係性を構築することに努め、皆様と一緒に笑ったり悩んだりしながら過ごせるように尽力を注いでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家型のホームであり、色とりどりのチューリップや桜が咲く前庭の花壇は、来訪者や利用者を和ませている。入居前の趣味を継続している利用者の居室には、写真や作品を飾っており、毎日の心豊かな暮らしが伝わってくる。身体拘束適正化委員会では、職員全員が虐待の芽チェックリストを使用して、結果を集計、分析し、拘束のないケアに取り組んでいる。職員会議前の議題の周知によって、より多くの意見が出やすいように工夫しており、活発な意見が出ている。理事長は、ホームの現状を把握したいという意識を常に持ち、給料日には必ず訪問し、職員と直接会話している。ホームでは、課題であった家族との関係構築についてLINEを活用し、利用者の日々の様子を写真で伝えて解決に繋げている。また、職員間での毎日の申し送り事項もLINEを使って共有している。職員は、利用者を人生の先輩として尊重し、真摯な姿勢で支援しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「大家族をつくろう」という理念は各職員が周知してきている。ご家族や法人全体、地域へと少しずつ、その輪を拡げ、包括的に支援出来るよう取り組んでいる。	理念と5つの基本方針の下、職員は利用者とゆっくり話す時間を持つことで信頼関係を築いている。新入職員にはオリエンテーション内で理念について説明しており、虐待防止委員会でも議題に上げ理解を深めている。利用者を人生の先輩として敬い、本人を取り巻く人々と協力し、本当の家族に近づけるよう理念を実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は自治会の班長を努め、地域への交流を深められた。地域のお祭りにも継続して参加し、貴重な時間を共有させて頂いた。	ホームは、自治会に加入し今年度班長を務め、管理者は班長会に出席し、広報誌を配布する他、職員が公園清掃に参加し、地域の一員として交流を深めている。地域の祭りに協賛し、利用者と職員が共に祭りを楽しんでいる。現在、民生委員と子どもとの交流を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の研修に加え、毎月時間を設けて各職員の知識向上と介護のスキルアップに取り組んでいる。相談や見学の際には、不安や悩み事に寄り添えるよう関わり、出来る範囲での情報伝達や提案を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ拡大により長らく開催されていなかったが、R6/11より再開。 介護保険課の方や民生委員の方に参加して頂き、意見を伺いサービスへと反映出来るようにしている。	年6回会議を実施し、第3回以降は対面での会議である。会議ではホームの状況、事故やヒヤリハット、行事や職員研修等の報告があり、参加メンバーから意見やアドバイスを得て、運営に活かしている。ただし、民生委員と行政職員の参加はあるものの、家族の参加はこの1年間はなく、対面会議の議事録を家族に送付していない。	会議時にも家族の参加が課題に上がっており、参加を促す工夫に期待したい。また、書面会議時には家族へ議事録を送付し感想が届いており、今後も議事録の配付が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やメール、FAX等にて協力関係を築いている。上述のように運営推進会議にも参加して頂き、忌憚なき意見を伺っている。	運営上不明な点があれば、電話で尋ねている。研修の案内や書類提出等をメールにてやり取りしており、事故報告書提出後にはその後の状況を伝えている。担当職員が定期的に利用者の面会に訪れている他、介護相談員の訪問があり、利用者と話す時間を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人研修で学んだことを自設ケースに照らし合わせ、適切なケアを心掛けるように行っている。同時に身体拘束や虐待予防にも研修を継続させて未然に防げる環境作りにも取り組んでいる。	指針を整備し、年2回の法人内研修と3ヶ月毎の適正化委員会にて職員は研修を受講している。定期的に、職員が虐待の芽チェックリストを付けており、集計し結果を分析している。利用者の動きを制止する声掛けや帰宅願望を聞き逃しているケースもあり、気づいた時にはその場で注意し、拘束や虐待のないケアに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の芽チェックリストを導入。各々がそれぞれの介護・介助が虐待に繋がっていないか、確認、意見を出し合い改善に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修や外部研修で学んでいる。不明な点や疑問等が出た際には、都度調べて支援が出来るように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際や改定がある際は、十分な時間を使い、疑問点や不安なこと等を説明し、ご理解頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話やメール、面会時等を活用。意見、要望等を話す機会を設けている。行事風景等を写真で郵送したり、Line等のSNSを利用してお伝えしている。	日頃から利用者の食べたいものを把握し、行事の際に提供している。申し送りノートは、写真に撮り、グループLINEで全職員が共有し、利用者の思いを把握している。家族には、利用者の日常の様子をLINEで送っている。書面会議の運営推進会議では、開催前に家族全員にアンケートを送付し、意見が出やすいよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議にて意見交換や要望を伝えている。また課長や管理者が定期的に個人面談をすることで、自分の意見や考えを話せる環境を設けている。	職員会議は、事前に議題を明示して意見を出しやすいよう工夫し、会議中に管理者が職員に発言を促している。管理者は、日頃から職員の要望や悩みを聞き取ることを心掛け、本部課長と職員面談を実施している。その結果、勤務体制変更の希望が通っている。理事長は、毎月給料日に訪問し、職員に声を掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議にて職員の個々の状態報告や職場環境等について報告・相談している。 毎月、代表者の訪問があり、職員との交流の場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の能力に合った研修の参加、力量を把握し、技術や知識の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は電話、メール研修のみである。法人内では、他事業所へのヘルプや配属転換等を通じて積極的に職員間交流に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の希望やご家族の意向を伺い、会話・傾聴を通してお互いの信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望に耳を傾けながら、これまで大変さや想い、今後のこと等を、労い・話し合うことで寄り添わせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の訴えや願い、ご家族様の想いや希望を第一に、支援に努めている。 その際に活用できる他サービスも視野に入れ、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身で出来ることや家事のお手伝い等、必要とされる・必要とされたいという気持ちを見失わず、本人様と職員が協力して生活する場の構築を目指している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設で完結するのではなく、ご家族様にも一緒に支援出来る環境を提供し、包括的な支援が出来るように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	前回と変わらず、遠くにお住まいのご家族の方も多いため、写真や電話・SNS等を利用し近況報告や連絡が出来るような環境作りを行っている。	入居時に、家族等から生活歴や家族構成に関する情報を得ている。知人と電話で連絡を取り扱っていたり、病院受診の帰りに知人を訪ねたりしている。韓国ドラマをDVDで鑑賞したり、デジカメの撮影を続けている利用者や居室にマリア像や位牌を置いている人もおり、職員は、馴染みの関係継続に配慮して支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者様の状態や性格・関係性等を把握し、座席や居室の設定を行っている。 利用者様間で衝突が起きそうな場合には、間に入らせて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡を頂き、お話を伺っている。ご相談があった際には、出来る限りの対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の希望を最優先に支援している。本人様が意思の伝達が困難な際には、ご家族にお尋ねし、意向に沿えるよう取り組んでいる。	利用者の起床や就寝時間は自由である。朝、着替える服を自ら選ぶ利用者もいる。コミュニケーションが困難な場合は、表情から推察している。職員は、利用者の言動を否定しないよう努めている。本人が発する言葉や行動は、連絡ノートに記載し、写真に写して、グループLINEで職員間で共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様やご家族様から直接お話を伺いながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や顔色・表情等を拝見して様子観察を行っている。 お声掛けや関わりの中で、本人様の不安や希望、危惧していることがないか気掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議やカンファレンスを行い、本人様の意向に沿った計画書作成とサービス提供に努めている。ご家族様に出来る範囲で説明し、納得頂けるように取り組んでいる。毎月の個別検討ではモニタリングを行いながら、計画書へ連動させている。	毎月のカンファレンスと2ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎のアセスメントでは全職員で話し合い、本人の発言や家族の要望を聞き計画を作成し、計画は本人・家族に同意を得て実行している。ただし、目標を介護記録アプリの個人ファイル内に記載し、目標に沿った記録を目指しているものの、職員への浸透には至っていない。	本人がより良く暮らせるよう、介護計画を意識した記録方法の検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や気付きはタブレットに記録し、各職員が情報共有出来る環境になっている。 また定期的に行うカンファレンス等で、更なる共有に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の状況を踏まえ、一人一人に沿った計画書の作成やサービス・支援が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流や関わりを今後も重ねていき、安心してお過ごし出来る環境の構築に努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回、協力医による定期健診・往診を行っている。週に複数回、看護師による定期訪問も行っており、特変時等は協力医へ連絡行うことで指示を仰いでいる。 外来の受診は家族や職員で連携し、支援を行っている。	かかりつけ医の継続はできるとともに、往診可能な協力医療機関を紹介することもある。基本的に家族が通院に付き添い、職員が同行する場合もあり、内容を双方で共有している。週に数回、法人内看護師が訪れ、利用者の健康状態を把握し、嚥下や足の体操等アドバイスしている。夜間緊急時には看護師とオンコール体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に複数回の看護師による定期訪問で、健康管理を行っている。特変時や急変時は連絡・相談を行っている。随時、協力医には状態報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療が出来るように家族や医療関係者と情報交換や連絡を行い、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に説明を行い、同意を得ている。ターミナルケアは複数回行っており、協力医や看護師・訪問看護等と連携し、支援させて頂いている。	入居時に、重度化した場合の指針に沿い意向を聞き、事前確認書と指針の同意を得ている。ホームでは看取り支援に取り組み、終末期に入ると、主治医、家族、訪問看護師等と話し合い、方針を確認しており、その人らしい最期を迎えられるよう支援している。看取り後は振り返りの時間を持ち、看護師の話は職員の不安軽減に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に対応出来るように、マニュアルや連絡体制の構築は出来ている。事故後は対策・対応を話し合い、事故報告書を回覧することで再発防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月一回は消防訓練を行っている。年に二回の消防署立ち合いの消防訓練は継続して行っている。地域の方へ避難場所の相談・対応等を伺い有事に備えている。またライフラインが断絶した時のため、食料の備蓄を当施設だけでなく、法人全体で用意している。	毎月の消防訓練では、自然災害想定その他、時間帯や火元を変えて避難訓練を実施している。年2回、消防署立会いの総合訓練では、利用者也参加し避難場所へ移動しており、消防署員からの評価を次の訓練に活かしている。ただし、地域住民の訓練参加はなく、非常時持ち出し利用者情報については検討中である。	ホームのみの避難移動には限界があり、地域の協力も不可欠である。地域住民の訓練参加への呼びかけ等工夫が望まれる。非常時持ち出し利用者情報についても検討が待たれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの既往歴を把握し、会話や質問・お声掛けに反映させている。声量の配慮や視線の高さ、敬語や丁寧語等を意識して信頼関係の構築に努めている。	利用者の呼び方は、苗字にさん付けとしている。虐待の芽チェックリストにて、職員は支援を振り返っている他、県の令和6年度権利擁護推進員養成研修を受講している職員がいる。利用者の写真使用について、書面で同意を得ている。業務日誌やホワイトボードの記載も含め、利用者の情報は、全て部屋番号を用いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る範囲で本人様の希望を伺い、支援を行えるように努めている。介護者の都合ではなく、利用者様ファーストで支援し、自己決定できるようにお声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく時間に捉われないにし、本人様のペースに沿った生活スタイルを守れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回、訪問理容に来て頂き、散髪をして頂いている。その際には希望の髪型を伝える方もお見えになっている。起床時や食後の整髪や整容、洗顔、口腔ケア、リップ等、身だしなみには意識して取り組むように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の提供は配食業者に委託している。飲み込み状態や嚥下状態を見て、全粥やトロミ・ムース食等、提供を変更している。季節や行事に合わせて、ちらし寿司や桃カステラ、茶わん蒸しやぜんざい他等を提供させて頂き、好評を得ている。	食事は、3食とも配食業者を利用し、主食は事業所で炊いている。きざみ食やミキサー食等にも対応できている。職員が検食を行い、利用者の残食の状態から業者へ要望を伝えている。敬老の日には、茶碗蒸しの出前を取ったり、誕生日では、評判の店のケーキで祝っている。ひな祭りのちらし寿司等、季節感を大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は都度記録し、毎月の体重測定と共に主治医へ上申行っている。咳き込みがある方にはトロミで提供。ジュースや珈琲、ポカリに加え、抹茶オレや紅茶、ごぼう茶他、以前より種類を増やし、水分を摂取しやすい環境を模索している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは実施。2週間に1回、訪問歯科に往診して頂き、清潔維持に努めている。その際、義歯やマウスピースの作製依頼や調整・修復もお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態や時間を記録しており、職員間で情報共有している。また記録を参考に排泄のお声掛け・誘導に努めている。リハビリパンツやテープ止め、適正なパットの大きさやポータブルトイレの洗浄にも活用している。	トイレでの排泄を基本としている。日常の排泄記録はタブレットを活用し、職員間で共有を図っている。毎月の職員会議でも、利用者全員の排泄の状態を確認し合っている。布の下着を使用している利用者がほとんどであり、パッドの種類を夫々変えて支援している。パッド類は、目につかない場所に保管し、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便表を記入し、状態確認に努めている。便量スケール表で硬さと量を共有し、排便が出ない日が続く時には、下剤でコントロールしている。看護師や主治医にも上申し、お腹のマッサージにも取り組んでいる。ごぼう茶も毎日提供し、腸活も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を固定せずに、週に二回入浴して頂いている。職員が全部介助するのではなく、出来ることはご自身で行ってもらい、楽しみながらADL維持に努めて頂いている。	日曜日以外は毎日入浴を準備している。リフト浴を備えており、介護度の高い利用者も職員1名又は2名で介助し、安全に入浴ができるよう支援している。好みの石鹸やシャンプーを使用することもできる。足浴や手浴を行ったり、冬至の柚子湯でリラックスできるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お疲れの時や希望される時は、和室や自室で休んで頂いている。長い時間ではなく、一時間前後を目安に休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が預かった薬をセットし、服薬して頂いている。セットした際、服薬時・服薬後と三回チェックすることで、誤薬や飲み忘れの予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物量みやモップ掛け、お皿洗い等、徐々に生活の中で取り組まれる機会が増えている。生活リハを通して張りや生きがい等を見出し、その人らしい生き方のお手伝いが出来るように取り組んでいる。また、一緒に合唱や体操に励んだり、長崎弁かるたや福笑い、ケーキ作りやクイズ等、気分転換の出来る環境構築に力を注いでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や地域のお祭り参加等、少しづつではあるが機会は増えているが、定期的にコロナを含む感染症が発生し思うようにいかないところが現状である。	気候の良い時期は庭に出て、花壇の花を楽しみ見ながら日光浴を行っている。病院受診の帰りに家族と車窓の景色を楽しむ利用者もいる。春には、近隣の桜の美しい公園へドライブへ出掛けたり、秋には町内の祭りに出掛け、子ども達で賑わう雰囲気味わっており、感染症予防に注意を払いながら、支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止のため、個人の物品の購入はご家族様・若しくは立替にての購入を継続している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様やご家族の希望に応じて、職員より電話が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事やお誕生日会の際に撮った写真を飾り、後日にも振り返って楽しめるように取り組んでいる。動画も撮影し、一緒に視聴し楽しんで頂いている。トイレや浴室等、従来は分かりにくかったため、新しくプレートを設置し理解しやすいように改善した。また自室からトイレまでが分からない方も入所したため、案内のイラストも新しく作製して対応している。	リビングは自然光が射し、窓から庭の芝生の緑とプランターの花々、桜が目に入り、心落ち着く空間である。利用者はテーブルを囲み職員と談笑したり、掘りごたつのある畳スペースで自席にて趣味の写真や脳トレを楽しんだり、湯上りに横になる等自由に過ごしている。職員による清掃と整理整頓が行き届き、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや和室の席等で環境設定を行い、思い思いにお過ごし出来るように努めている。和室のテーブルの下が冷えるため、掘りこたつヒーターを購入し、好評を得ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族ともしっかりとお話をし、本人様が落ち着いて生活出来るように、居室の準備を行っている。また、本人様から希望があればご家族へ連絡し、持参して頂いている。	1階、2階に居室があり、エレベーターで共有空間へ行き来している。持ち込み品に制限はなく、趣味の写真を飾ったり、本人が楽しめるようDVDレコーダーや飲み物用クーラー等、家族が協力して設置している。私用のシーツを定期的に洗濯交換し、職員による清掃、換気、室温管理により快適に過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間はセンサーを設置し、転倒等の事故に備えている。施設の中や階段を移動しようとする際には、見守りや介助をさせて頂くが、なるべく本人様の意向に沿った生活を送れるように努めている。		